

1 日本語で自己紹介をする

1. 「私のクラスのインターアクション」の例



例 1)	どんな場面？	地域の人をクラスに招待し、交流する。 (ポスターの作成から、学習者に行ってもらおう。)
	誰と？	ポスターで募集した地域の参加者 (年齢は問わない)
例 2)	どんな場面？	地域の国際交流協会の日本語教室を訪問し、ボランティア会員たちと交流をする。
	誰と？	国際交流協会の日本語教室ボランティア
例 3)	どんな場面？	近隣の学校 (小学校・中学校・高校・大学・専門学校など) を訪問し、交流をする。
	誰と？	訪問する学校の学生
例 4)	どんな場面？	学部・大学院の他の授業と合同でディスカッションの授業を行い、交流する。 (合同授業を行ってくれる先生との準備が必要。ディスカッションを始める授業活動の導入として自己紹介を行う。)
	誰と？	同じ大学の学部生 / 大学院生
例 5)	どんな場面？	学期を通してメール交換を行う活動を取り入れ、最初の顔合わせとして「自己紹介」をする。
	誰と？	同じ大学の学部生 / 大学院生 / 地域の参加者など



初めて会う人と日本語で自己紹介をして、お互いのことについて話す。

2. デザインのポイント / 注意点

- この課の目標の 1 つは、自己紹介から始まるインターアクションを通して、知り合った人とその場限りで終わらない付き合いを続けていくきっかけをつくることです。学習者が日本に滞在する間、どのような日本人とつながりを持つといいかを考え、学習者のネットワーク形成に役立つような活動のデザインができると思います。

- そのため、「どんな場面？」には、学習者と初めて会う人がそれぞれの情報を交換する行為が起きやすい場面を考えます。「交流会」は典型的な場と言えるでしょう。また、「誰と？」には、この活動のあとにも連絡を取ったり、会ったりしやすい学習者の生活領域（大学、学校、地域など）に属する人物を考えるといいでしょう。
- 教科書では、「交流会」という場面で自己紹介から始まるインターアクションを学習します。「交流会」のような初対面の人との交流を目的とする活動を設定することもできますが（例 1～例 3）、「交流会」とは別の活動と組み合わせ、最初に「自己紹介」の活動を取り入れることも可能です（例 4、例 5）。

3. 活動の流れの例

教科書（p. 8）のインターアクションの例をクラス活動として行う場合の一例をご紹介します。

（1）事前準備

- ビジターとして参加してくれる日本人学生を募集します。（1～2週間前）
 - *募集の方法は、学内のメーリングリスト／ポスター、チラシ／学部の先生方にお知らせしてもらうなどがあります。
- 活動に必用なものを準備します。（ネームカード、ICレコーダー、音楽、スピーカー、お菓子やジュースなど）
- 日本人学生に配布する資料を準備します。
 - *配布資料には「活動の目的」「当日の活動の流れ」「注意点」などを書いておきます。
- 人数が多い場合は広い教室を準備します。
 - *いつもと違う場所で行うと、「本番」の意識が高まります。

（2）当日の活動の流れ（90分の場合）

時間配分	活動の進め方		備考
10分	準備	◆教室のセッティングをする。	・配布資料
	活動の説明	◆教師が日本人学生に活動内容、活動時の注意点などを説明する。 *遅刻する学生、話を聞いていない学生がいるので、活動の目的、授業の流れ、注意点などを書いた配布資料を渡すとよい。	
45分	活動①	◆ペア／グループで自己紹介をし、お互いのことを知るために自由に話す。（1回約20分×2回） *学習者、日本人参加者に自由にペアを組んでもらう。 *出身地、自国の大学などについて話すときは、地図や写真を準備すると話が盛り上がることが多い。 *グループで行う場合は、できるだけ少人数で行うと、学習者の話すチャンスが増え、関係も深まりやすいので効果的。	・録音する ・評価対象とする

時間配分	活動の進め方		備考
	(活動①の続き)	<ul style="list-style-type: none"> * 評価対象にする場合には、ペアを変えて2回分録音したほうがいい。 * 飴やチョコなどの小さいお菓子があるとリラックスした雰囲気になる。(緊張する学生が多い場合は話しやすい環境を作ることも重要。) * 国の地図や大学、出身地、家族・友達などの写真があると話が盛り上がることが多い。 	
30分	活動②	<p>◆交流活動をする</p> <p>例1) 音楽をかけて全員で教室を自由に歩き(踊り)回る。音楽がストップしたときに近くにいた学生(できるだけ活動①でペアにならなかった学生)とグループになって自己紹介をする。(3分×数回)</p> <p>例2) 多くの人と交流できるゲームをする。</p> <p>例) 名前を覚えるゲーム/人探しビンゴゲーム/学習者の国のゲームや遊びを紹介し、一緒にやるなど</p> <ul style="list-style-type: none"> * 活動①で話せなかった学生と話すチャンスが生まれる活動を取り入れるとよい。 * 活動は1つでもよいが、話す活動ばかりだと疲れてしまうので、遊びの要素と組み合わせ、学習者に「楽しい!」「もっと交流したい!」と思ってもらうことが大切。 * 部屋全体を使って動きを取り入れた活動にすると盛り上がる。 * 企画の上手な学習者がいれば、学習者に企画、当日の仕切りをお願いするとよい。 	・評価対象としない
5分	後片づけなど		

(3) フォローアップタスク

クラスに参加してくれたビジターのリストを作ることを目的に、録音した会話を聞き、自己紹介した相手の情報をA4の紙1ページにまとめてもらいます。

* フォローアップタスクを行う場合は、「まとめることが日本語の練習になる」という日本語学習上の目的だけでなく、「ビジターと今後もやり取りを続けるため」「今後のビジター募集の参考にするため」などのような、実際の行動に結びついた目的を設定するといいいでしょう。練習のための練習ではなく、生きた活動になります。

(4課、5課の友達と行う活動では、この活動に参加した日本人学生を招待することも可能です。今後のビジターセッションの協力者募集の際にこのリストが役に立つことがあります。)

* 『ふりかえりシート』の記入と同時に行うと効率的です。

4. 活動実施のポイント／注意点

- ビジターを募集する場合は、当日急にキャンセルが出ることもあるので、予定の人数より多く募集をしておくといいでしょう。
- 会話を録音する場合は、ビジター募集の案内の中に載せておきます。
- 知り合った参加者との連絡先の交換については注意が必要です。基本的には授業活動内は連絡先の交換をしないように事前に学習者、日本人参加者の両者に伝えたいほうがいいでしょう。同じ学内の学生であれば、活動後に両者の意志で自由に連絡先を交換しても問題ありませんが、外部の参加者（例：地域の参加者）との交流の場合は、基本的に連絡先の交換をしないようにし、連絡したい場合は教師を通して行うのも1つの方法です。また、連絡先の教え方／断り方については、事前に授業で練習しておくといいでしょう。

<連絡先の交換の仕方>

①連絡先を交換したい場合

相手が教えたくない場合もあるので、相手の連絡先を無理に聞かずに、自分の連絡先を教える、相手に配慮した表現を使うなどの注意が必要です。



例) もしよかったら、このメールアドレスに連絡してください。
例) 日本語を話したいので、また連絡したいのですが……。

②連絡先を教えたくない場合

直接的な断りは相手を傷つけたり、誤解を招く可能性もあるので、断りの表現を工夫する必要があります。クラスでどのようにしたらいいか話し合うといいと思います。



例) 今、携帯電話の番号／メールアドレスがわからないので……。
今度でもいいですか？

- この課では、まず日本語のインターアクションに自信を持ってもらうことが大切です。学期の最初の活動になる場合が多いので、学習者が緊張しすぎないように、リラックスした雰囲気を作り、できるだけ自由に活動してもらいたいと思います。